

文語の苑

メールマガジン第二十三号（平成二十五年五月）

クウェイトとロボット

クウェイトは五百万の住民を有すれどもクウェイト人はその三分の一に過ぎず。同国には巨額の石油収入ありて全ての国民に裕福なる生活を保障して尚余りあり。クウェイト人にその職業を問はば、アナー・クウェイティー」と答ふ。アラビア語にて余は「クウェイト人なり」の意にして、余は貴族なりの意にほぼ等し。「何をか為してたつきとはする」と貴族に問ふは愚問なり。残余の三分の二の住民はパレスチナ人等のアラブ、インド、パキスタン人、フィリピン、タイ等のアジア人と雑多なる構成にして、平民や奴隷の如くクウェイト人に仕ふ。

所得税を始め租税はほぼ無きに等しく、教育、医療は無償にして電気水道料金は存せず。加へてクウェイト人ならば多額の生活費も支給せらる。かく聞かばクウェイト人に取りて同国は天国の如しと思ふべし。されどさに非ず。

石油収入は首長（アミールと称す）の意向により国民に分配せらるるところ、クウェイト人は働かざるを常とすればその働きにより分配すること能はず。我も我が隣人も共に働かざるに何故に彼は我が三倍の分配を受くるやとの不満は常に絶えず。分配の恣意性は常に政治的話題にならざるを得ず。

凡そ資本主義社会においても社会主義社会においても分配は社会的総生産に対する貢献の度合いに依りて生産関係を通じてなされる建前なり。この建前存するが故に分配の結果に対し大方の承認あり。仮に多くの国民、生産関係より外れ、この建前の充分に機能せざる場合はクウェイトに於けるが如く、政治的不満の嵩する惧れなしとせず。

今日学者も企業家も政治家も口を揃へて生産性の向上、技術発展の必要性を説く。先進国の未来はこの分野において他に先んずるにありとなすに全く異論を聴かず。されど余は永年産業行政に携り、先端産業の現場を見る機会に恵まれたれば、この点につき些かの疑念を有す。

一例を挙ぐるに、曾ってテレビ組立てにおいて最も熟練度の高き人手を要したる作業過程は最終段階の調整過程なりき。作業員の前には大なる鏡あり、作業員と鏡の間を仕掛品ベルトコンベアの上を流る。鏡にはプラウン管上にテストパターン映り、それを見つつ作業員は仕掛品のテレビの裏側に手を入れて複雑なる回路部品を調節するなり。この工程几帳面さと熟練を要し、為にテレビ組立工場をかかると熟練工を有せざる後進国に移転するは不可能なりき。然るに技術革新起り、作業員鏡の代りにモニターの数字を見て調整すること可能となりぬ。作業はテレビゲームの如く容易となり、テレビ産業は雪崩を打って日本を去り、東南アジアへ移る。かくして本邦は技術革新の結果多くの雇用を失へり。

凡そ技術革新は大量の労働者を生産関係より排除するものなり。微視的観点よりすれば好ましきことも巨視的観点よりすれば望ましからぬこともあり得べし。例へば製造業の一部を失ふとも更に高き水準の産業部門を開発せば案ずるに及ばずとなす論者あり。されど果たして然るや詳らかに検証せざるべからず。

技術進歩の結果として先進国は次々に職場を後進国に奪はる。望みを托せし金融等の第三次産業においてもロボットの性能向上により将来雇用の縮小必至なり。かかる雇用の縮小は財政の負担を増大す。近時の各国の財政困難はその遠因は技術の進歩と人口の高齢化にあり。いづれも微視的には極めて望ましきことなれど、まさにその故にこそ解決困難なる問題を生ずるなれ。

経済学は供給サイドの分析には優れたり。されど分配については凡そ聞くに値するものなし。マルクス経済学凋落せるはよきことなれど、それに代りて我が世の春を謳ふ現代経済学の上記諸問題への取組は心許なき限りなり。

文語の苑

メールマガジン第二十三号

小倉百人一首 二十一 曾禰好忠

由良の門を渡る舟人梶緒絶え 行方も知らぬ戀のみちかな

佳い歌、人に深い感動を與へ(え)る歌とはどういふ(う)歌でせ(しよ)うか。私の感じ方は偏つてゐ(い)るかも知れませんが、しかし私は、歌によって表現される作者の感慨の深さとともに、歌の表現する感情と照應して、具體的な情景が浮び上がって来る歌、例へ(え)ばこれまでに見た中では、小野小町の「花の色は移りにけりないたづらに我が身世にふるながめせしまに」のや(よ)うな歌から、最大の感銘を受けます。單なる紋景ではなく、また單純な抒情でもなく、紋景の裏に情念の陰翳が差してゐ(い)るとでも申せませ(しよ)うか。この曾禰好忠の歌はそのや(よ)うな歌ですから、私には百人一首の中でも第一級の名歌であると思は(わ)れます。

由良の門がどこかについては兩説あるや(よ)うですが、多數説は、契沖の説とは違ひ、紀州と四國の間の海峡と見ます。この海峡を渡る舟人が梶緒を流してしまつて、廣い海の中でただゆらゆらと揺れながら、どうしたらよいか分らず途方に暮れてゐ(い)る。そんな情景と、どうなつて行くのか分らない自分の戀の行く末への不安とが、見事に照應します。凡河内躬恒の歌に、「我が戀は行方も知らずはてまなし逢ふを限りと思ふばかりぞ」とありますが、その歌を踏まへて詠んだ歌でせ(しよ)う。

曾禰好忠は古今集(十世紀初頭)と源氏物語(十一世紀初め)の中間くらい時代に生きた人です。この時代の歌風は古今集時代の續きで、紀貫之等に範を取つた技巧的な歌が多いのですが、その中でこの人の歌は異彩を放ち、作者の感情を素直に、また直截に詠つた歌が、現代にまで通ずる感動を與へ(え)ます。例へ(え)ば次のや(よ)うな歌です。「鳴けや鳴け」の歌は、「由良の門」の歌と並んで後世に廣く知られた名歌です。「きりぎりす」は今の「こぼろぎ」。

鳴けや鳴け蓬が朧のきりぎりす 過ぎゆく秋はげにぞかなしき
妹と我ねやの風戸にひるねして 日たかき夏のかげをすくさむ

曾禰好忠は丹後掾といふ(う)地方の下級役人で、曾丹と呼ばれて居りましたが、本人はこの呼稱を嫌つたらしい。自分の歌に絶大な自信を持ち、狷介孤高で片意地な性格の人だったや(よ)うです。奇行で知られ、中でも花山天皇の御代、先代の圓融院が主催された紫野の歌の會に、お召しを受けてゐ(い)ないのに、むさくるしいなりで歌人の召人たちの席に勝手に坐り込み、皆に打擲されて追出された話がよく知られてゐ(い)ます。歌の名人でありながら、身分が低く貧しいために晴れの席に出る装束がなく、性格も偏つてゐ(い)るために人に嫌は(わ)れた哀れな話です。この人は少くとも百年以上早く世に生れ過ぎたのでせ(しよ)う。藤原定家を初めとする後世の歌人たちは、他の人には詠むことのできないこの人の歌を高く評價しました。例へ(え)ば上の「妹と我」の歌などは、今の人の歌と見てもさして違和感が無いのではないでせ(しよ)うか。

加藤淳平

文語の苑

メールマガジン第二十三号

文語歌曲「櫻井の訣別」

明治政府は、唱歌に教育的要素を盛込むことに腐心しましたが、始めての國家建設にあたり皇室をその求心力の中心に据ゑることとし、そのため忠義を大きな徳目としました。その流れで早々と「南朝五忠臣」といつた歌を「保育唱歌」に取入れました。その中でも楠木正成（まさしげ）、正行（まさつら）の忠臣ぶりと親子の有り様は日本人の心に深く食入り、この忠孝の鑑ともいふべき父子をテーマとした歌が幾つも作られ、長く愛唱されました。「南朝五忠臣」にも出て来る楠木正行の、後年戦ひに散つた場所「四條畷」も別の唱歌になつてゐますが、死地に赴く際、吉野の後醍醐天皇陵に詣でその前の如意輪寺の扉に鏃（やじり）で書いた和歌も日本人の心情に觸れるものでした。

かへらじとかねて思へば梓弓なき數に入る名をぞとどむる

この歌にはもう一つの話があります。音楽の情緒に及ぼす影響です。財津一郎の歌を聞くと、泣き叫んでゐる子供が泣き止むとか。これなど音楽の人間感情に對する直接的な効果ともいふべきものです。が、明治に入つて富國強兵が國是とされたため、唱歌を作るにも悲しさを誘ふ短調ではなく、明るく活潑な長調による歌が推奨されました。ところがこの「青葉茂れる」の歌は、ドレミソラドと四七（よな）抜き、雅樂でいふ呂旋法で作曲されたものが、皆に歌はれるうちにミとラが半音下つて、八短調のやうになり、それで一段と持て囃されるやうになつたさうです。日本人はどつちも短調的だ、どちらかと言ふと感傷的な音楽が好きなのだと思はれてゐます。ましてや親子の別れともなると當然でせう。ところで、最近の子供に短調は受けないといふか、理解されないさうです。テレビから出て来る音楽中でも無意識のうちに頻繁に幼い時から耳にしてゐるコマースャル音楽では短調が使はれないので、馴染みがなくなつたからだと言はれてゐます。暗い廣告では物は賣れません。それにしても、コマースャリズムが人間形成にも、文化にも影響してきてゐるとは。

一 青葉茂れる櫻井の 里のわたりの夕まぐれ

木の下蔭に駒とめて世の行く末をつくづくと

忍ぶ鎧の袖の上に 散るは涙かはた露か

* わたり＝邊り

* はた露か＝それとも、あるいは

二 正成涙を打ち払い 我子正行呼び寄せて

父は兵庫に赴かん 彼方の浦にて討死せん

いましはここまで来（きた）れども とくどく歸れ故郷（ふるさと）へ

* とくどく＝早く早く、すみやかに

三 父上いかに宣（のたま）ふも 見捨てまつりてわれ一人

いかで歸らん歸られん この正行は年こそは

未だ若けれ諸共に 御供仕へん死出の旅

* いかで＝どつして（歸られようか）、歸られません（反語）

文語の苑

メールマガジン第二十三号

四 いましをここより歸さんは わが私(わたくし)の爲ならず
己れ討死爲(な)さんには 世は尊氏の儘(まま)ならん
早く生(お)ひ立ち大君に 仕へまつれよ國の爲
* いまし〓汝、おまへ

五 この一刀(ひとふり)はいにし年 君の賜ひし物なるぞ
この世の別れの形見にと 汝にこれを贈りてん
行けよ正行故郷へ 老いたる母の待ちまさん
* いにし〓往にし、過ぎ去つた
* 待ちまさん〓待ち+尊敬語の「ます」+推量の「ん〓む」

六 共に見送り見返りて 別れを惜しむ折からに
復(また)も降り来る五月雨(さみだれ)の 空に聞こゆる時鳥(ほととぎす)
誰れが哀れと聞かざらん あはれ血に泣くその聲を
* 血に泣く〓「泣いて血を吐く不如帰」といふ慣用句がありますが、口の中が赤いことと、鳴き聲
が甲高いことからとされます。ここから中國故事も生れたと考へられます。

谷田貝常夫

文語の苑

メールマガジン第二十三号

心の貧しき者

(文字化けするので、漢字の代りに などで表示し、その後に説明を付けました)

「山上の垂訓」とは、耶穌(中國語の發音は「イエースー」/中國語では、「蘇」の草冠のない字を使ふ)がガリラヤ湖のほとりの小高い丘の上で行った説教です。マタイ傳第五章にあります。全部で八つの教へから成つてゐますが、その最初が、明治譯に據れば、「心の貧しき者は福なり天國は即其人の有なれば也」、大正譯によれば「幸福なるかな、心の貧しき者。天國はその人のものなり」です。

新約聖書には、「明治譯」と「大正譯」があります。(舊約聖書は明治譯だけ)

明治譯の方が莊嚴な響きがあつて好ましいといふ人が多いやうですが、その明治譯も、一般庶民に讀ませることを眼目にしてゐるだけに、かなり平易な文語文になつてゐます。文語の初歩の教科書として適切だと思ひます。

それにしても、「心の貧しき者」がどうして幸ひなのでせう。口語譯でも、「心の貧しい人たちは幸いである」となつてをり、その疑問を解決してはくれません。

どう考へても、「心の貧しい」がよい意味であるとは思はれないのです。

聖書の英語譯は昔からたくさん出版されてゐます。

ある版にゆれば、Blessed are the poor in spirit. となつてゐますが、納得が行きません。

ところが、別の版で、Happy are those who know they are spiritually poor. というのを見つけました。「自らが、精神的に貧しいといふことを知つてゐる者は幸ひである」といふわけです。なるほど、これなら分かります。ソクラテスの「無知の知」と似てゐないこともありません。自らの至らなさに気づいてゐる者には、神の祝福があるといふわけです。

中國語の聖書には、「神版」と「上帝版」があります。Godを「神」(shenノシエン)と譯してゐるものと、「上帝」(shangdiノシヤンティ)と譯してゐるものと。

「神版」の方が古く、「上帝版」が新しい。

日本語の明治譯と大正譯のやうな關係だと言つたらよいでせうか。

この他に「漢文譯」といふのもありますが、簡単には手に入らないやうです。

「幸福なるかな、心の貧しき者」の中國語譯を見てみませう。

「上帝版」では、「承認自己靈性貧乏的人多麼有福 ！」() の字はクチヘンに阿)

「血肉の靈性が貧乏であることを承認する者はなんと幸ひであらうか」といふわけですから、英語の who know が入つてゐる方と同じです。

さらに、「神版」を見てみると、アツと驚かせられます。

「虚心的人有福了」と譯してゐるのです。

相當な意譯をしてゐるやうです。「虚心」(xuxin)は、中日辭典を引くと、「謙虚である」となつてゐます。

なるほど、「心の貧しき者」とはをかきな言葉だなあとと思つてゐた年來の心のわだかまりが氷解するではありませんか。

「心の貧しきもの(自分の心の貧しさを知つてゐる者)」とは、「謙虚な者」なのです。

文語の苑

メールマガジン第二十三号

「謙虚」「謙遜」といふのは、キリスト教では最大の徳の一つであり、それを実践した第一の人が聖母です。

「ロザリオの祈り」といふのは、聖母に捧げる祈りです。「ロザリオ」とは、カトリックで使ふ数珠のやうなものです。その語源は「薔薇」の rose に由来します。

「ロザリオの祈り」を中国語では「経」(meiguiling メイグエイリン、meiは王扁にノブン)、『牧』の旁』ノ guiは王扁に鬼)と言ひます。meiguiは、薔薇の一品種を指します。

jingは「経」で、祈りの文句を「経」と言つてゐるのです。

ついでながら、「めでたし、聖龍満ち満てるマリヤ」で始まる「天使祝詞」を中国語では「聖母経」(shengmujing ショムムージン)と言ひます。

聖母は天使ガブリエルから、神の子を宿したことを告げられた時、「我是主的使女。情願照 的話成就在我身上」(我は主のはしたためなり。汝のいへることく、我が身上に成就せんことをこひねがふノ は人偏に「称」の旁でロ(ニー)と讀み、「汝」の意味)と答へます。

神の命令を無條件に受け入れる。これが「謙遜の徳」の至上のものなのです。

それを受けて、「ロザリオの祈り」の冒頭では、「この一聯を捧げて聖母が御告を受け給ひたるを默想し、その御取繼によりて、謙遜の徳を請ひ願はん」と祈るのです。

ロザリオの祈りは、中國語では全然違ふ文になつてをり、當該部分は、聖書の受胎告知の場面を紹介してゐるところであります。

天使進去向 説、萬福滿被聖寵者。上主與 同在。在女人中、是蒙祝福的。

(は「ヨナンヘンに也」で「彼女」の意味ノ は と同じ字)

あへて漢文のやうに訓讀してみませう。

天使進み去きて、彼女に向ひて説く、「めでたし、聖寵に満たされたる者よ。上主、汝と同一に在り。女人の中に在りて、汝は祝福を蒙りたり」。

「萬福(wanfu)ノロンフー」は Ave Maria の Ave に好字を宛てて音譯したもの。「榮えあれ」だと言つたらいいでせうか。

高田友

文語の苑

メールマガジン第二十三号

人権

半世紀も前、千九百六十年代前半米國在任の頃、父の仕事の都合により、公立の高等學校より私立の聖心女子學院に轉校せしめられたり。公立の學校は氣樂なりき。聖心にては、學年が異なるにあらずやと思ふほど學習進度が早く、追いつかんがため毎晩夜中の二時や三時まで机に向ふあり。ラテン語さへあれども、轉校してきたれるばかりの身なれば、とりあへず一年目は免除せられたり。一生のうちにて、かくのごとく来る日も来る日も長時間に互り勉強するは初めてなりき。下級生にはロバート・ケネディの娘たちあり。一日歴史の授業にて奴隸制度の話に及び、奴隸制度ありし方が黒人は幸福なりきといふ議論せられたり。この時代にかくのごとき議論を教室にてするとは夢思はざれど、完全に共和黨と民主黨（親の政治志向なりと覺ゆ）に分かれて話進みたり。共和黨側の多くは奴隸制度續きましかば、黒人則ち守られ幸福にてあらまし、といふ。反對側は同じ人間にして人種の異なるのみにて奴隸となすは間違ひといふものなり。喧々囂々議論ありて後、突然「ケイコはここで唯一アジアの人間なれば、どう思ふや述べよ」と先生より指名あり。仰天すれど、いかんともすべなし、「同じ人間が他の人間を奴隸にするは人權を奪ふに異ならず。かくのごとき惡のあるべからずと思ふ」と返答したり。さはさりながら、數年前總括したる若者のための國際會議に於て、宣言文を作成中、人間は平等なりと言ふ議論になりき。アフガニスタンの青年は「自分は生まれし時より常に戰亂の中にありき、人間平等なりとは思ふにあたらず」と發言し、南アフリカの青年は「生まれし時より差別せられ、平等などはこの世にあらず」と言ひき。熟々考ふるに地球上において人權の尊重せられざる昨今、昔にも變はらざるにあらずや。

赤谷慶子

文語の苑

メールマガジン第二十三号

八十一と言ふ名

余の名、祖父が名付けたり。当人これを気に入らず、その由来に聞く耳をもたざるに、他人の関心は少なからず、これまで耳にしたるその解釈亦多ければその典型を茲に列挙せむ。

父上八十一歳の時のお子なるやと問ひし人の小首を傾げ、ややありて、いやおぢい様の八十一歳の時のお子なるやと言ひ直し、なほ理に叶はざるを見ること少なからず。この説ひとへに山本五十六元帥の名これ父親五十六歳の子なる逸話に基づき、「いそろく」とキーボードに打ちたればたちどころに「五十六」と表示されるを見るにつけ、「やそいち」と打ちて何の応答もなし。已矣哉。

八月十一日生まれなるやと問ふは極めて素直な指摘にて、余の誕生日八月一日なれば、それを明かすことで、やはりさやうなりしかとお互い打ち解けてものごと丸く収まらんとするところ、余の性根やや氣難しければ顔色麗しからざるにや、おほかた半端なる會話にて終るを如何せむ。実のところ余は七月三十日の生まれなるを戸籍の登録が八月一日なれば、星占ひも何も正確さを欠くことこの上なく、さりとして、この名のために生誕日を変ふことも得ざりき。

八十一歳の長きに壽命を保ち得むと思ひきやと尋ぬるは昭和三十年代まで、すなはち余の子供の頃にしばしばありたるに、今日これを聞く機会絶えてなし。余生まれたる昭和二十六年、男の平均壽命史上初めて六十歳を超えたれば、当時において八十を超えて長生きせよとはまことに宜しなり。されどこれにうなづきたることなし。子供心に八十といふ年月のあまりの計り難きにそは永遠に生くることなるかと思ひたること記憶に残れり。

郷里の菩提寺に、戒名を位牌に刻むに俗名の一字を加ふる習ひあり。聊かの安直の誇りは免れ難きも、確かに戒名より俗名を類推するに便利なり。されど余、今から計りて我位牌に、八と十と一の文字を刻むこと罷りならぬと長男を前に力説するも、いづれ死後のことにて確たる保証の無きに、氣に入らざれば中有に永劫彷徨ひて成仏すること能はじ。さればこの名に相応しく、八十一歳の八月一日に身罷らむとせめば、位牌に八十一の文字莫くも特定容易ならまし。

清朝の皇帝服に大龍が咆哮せる意匠に詳細なる仕様あり。地の黄色は言ふに及ばず。四肢の先に鋭き爪の天地四方を掴み取らんとするにその数はいづれも一肢につき五本なり。大臣の龍の文様を用ゐる機会あらば、それは必ず三本にて五本とするは大逆なり。皇帝の鱗の枚数は八十一と定められ、他にこの數字を用ゐることは許されず。すなはち八十一は九九の最大数にて最聖數なればなり。余の名當に最聖數に由来しあるは、祖父余に名前負けせざるの努力をば命じたるらむ。

文語の苑

メールマガジン第二十三号

文語作文初学者の所見

「文語の苑」はユニークな集まりです。その理由のひとつは文語を「書く」ことを重んじている点です。古い文学を鑑賞したり、歴史研究のために古文書を読んだりする教室は多くありますが、文語で文章を書くことに注力している団体を他に知りません。和歌や俳句を詠む時には文語を用いることが多く、それらの集まりでは文語を勉強するでしょう。ですが、詩歌ではない、普通の「地」の文（散文）の「文語作文」を学べる場は少ないのです。

かつて、私は文語文を書きたいと思い、インターネット等で教えてくれるところを探しました。唯一見つかったのが「文語の苑」でした。お願いしてその勉強会に加えて頂き、学習するうち自分がいかに日本語を知らなかったのかを思うようになりました。また、子供の頃から疑問だったことが「そうか。そうだったのか」とやっとわかって愉快に思うこともあります。例えば次のようなことです。

子供の頃に学校で文法を習った時（今でも教えているのでしょうか？）、動詞には活用がある、と教わりました。動詞の語尾に「ナイ、マス、マル、トキ、バ、ヨ」を付けるあれです。例えば「歩く」をこれに当てはめると「歩かナイ」「歩きマス」「歩く。」「歩くとキ」「歩けバ」「歩けヨ」となって、語尾が「か、き、く、け」と活用する。すなわち、「歩く」という動詞は力行の活用ということになります。

しかし、例えば「言つ」をこれに当てはめると「言わナイ」「言いマス」「言つ。」「言つとキ」「言えバ」「言えヨ」となり「わ、い、う、え」と活用して少し変です。未然形の語尾だけがワ行、残りはア行になってしまうのです。

当時この点を先生に質問した記憶があるのですが、先生の答えが何だったのか、その答に自分が納得したのかどうか、覚えていません。あるいは説明に窮した先生を気の毒に思い、追求を止めてしまったのかも知れません。

「文語の苑」の勉強会で、「言つ」は元来、「言ふ」なのだと思い、子供の頃の疑問が蘇り、そして氷解しました。元々の活用は「言はナイ」「言ひマス」「言ぶ。」「言ふとキ」「言へバ」「言へヨ」だったので。これで語尾が全て「は行」の中におさまり、すつきりしました。唯、読み方だけが「言わナイ」「言いマス」「言つ。」「言つとキ」「言えバ」「言えヨ」なのです。

そうであれば「言つ」ではなく、「言ふ」と書くべきではないか、と思うようになりました。「言ふ」と書いて「言つ」と読むのには抵抗があるかも知れませんが、でも、それは慣れの問題だと思えます。「私は」と書いて「私わ」と読んでいるのですから。つい百年ほど前まで、千年もの長きにわたってそのように書いてきたのだから、それに戻るのが自然なのではないかと思えます。

戻すべきだと考えている人が少なからず存在するのも尤もだと考えます。私は文語作文を勉強するうち、その中の一人になりました。

兒玉稔

文語の苑

メールマガジン第二十三号

遠くは戦後教育の影響により近くは経済活動の低迷により現今の我民族の自信喪失には看過し得ぬものあり。我歴史のうちには世界に誇り得るもの数多あれどこれに目を向けること真に少なし。かかる趨勢を些かなりとも変ふるは喫緊の課題なり。吾人の文語復興運動を始むるに至りしはまさにこの認識に拠る。

安岡正篤は戦前戦後に掛けての一大思想家にして、一時期政財界の指導者、官僚に絶大なる影響を及ぼせり。帝大卒業時に既に陽明学者として世に知られ、一旦官途に就きたるも直ちに之を離れ爾後教育界に身を投じ、日本及び東洋精神の作興に一生を捧ぐ。世の人の軽視せる神仏儒に新たな価値を見出し、西洋崇拜の風潮の中に民族独立の精神的支柱を打ち立てむとす。

文語の苑の会員加藤隆一氏この度安岡正篤の遺風を後世に傳へむとて、先師の設立になる師友會の名を冠して東京師友俱樂部を創設し、その第一回会合として下記により論語及び古事記の素読解説の会を催す。関係者各位揮って参加されむことを切に希望す。

日時 平成二十五年六月二日日曜日 午後二時より午後四時十五分
場所 富岡八幡宮 婚礼殿にて
講師 加藤隆一 経済金融研究所長 五二八一 七九四三 keizai@imnyu@mbe.nifty.com
会費 三千円

<http://www.tomikahachimangu.or.jp/htmls/kotu.html>

営団地下鉄東西線「門前仲町」駅より徒歩三分

都営地下鉄大江戸線「門前仲町」駅より徒歩六分

JR京葉線「越中島駅」駅より徒歩十五分

〒一三五 〇〇四七 東京都江東区富岡 一の二十の三

TEL 三四六一 一三五 FAX 三四六一 五五八

文語の苑 代表幹事 愛甲次郎